

第二回館山市議定会定例会會議錄（第四号）



一、昭和五十七年六月二十五日（金曜日）午前十時

二、館山市役所議場

三、出席議員 二十六名

一番	神田 守隆	二番	石井 謀
四番	横溝 功	五番	福原 勤
七番	古賀 礼四郎	八番	石井 昌治
九番	松下 正己	十一番	林 豊
一二番	栗原 一雄	一三番	近藤 好雄
一四番	渡辺 昭夫	一五番	伊藤 幸太郎
一七番	黒川 平治	一八番	流山 源次郎
一九番	石井 輝久	二〇番	石井 武敏
二一番	吉田 勇治郎	二二番	藤田 益治
二三番	菊井 敏博	二四番	和田 一郎
二五番	五十嵐 昇	二六番	伊賀 多朗
二七番	石井 正	二八番	安澤 徳順
二九番	安西 益男	三〇番	山口 康

四、欠席議員 なし

五、出席説明員

六、出席事務局職員

七、第一号に同じ

八、議事日程（第四号）

昭和五十七年六月二十五日午前十時開議

議案第三十一号 館山市国民健康保険税条例の一部を

改正する条例の制定について

議案第三十五号 工事請負契約の締結について  
議案第三十四号 昭和五十七年度館山市一般会計補正  
予算（第一号）

日程第二 議案第三十二号 館山市立博物館設置条例の制定につ  
いて

日程第三 議案第三十三号 館山市市営住宅の設置及び管理に関  
する条例等の一部を改正する条例の  
制定について

日程第四 請願第一号 地域の公共交通確保に関する請願書

日程第五 発議案第四号 日中国交正常化十周年を祝賀し、中  
国及び養父母に感謝する決議につ  
いて

日程第六 議案第三十六号 財産の取得について

開 議 午前十時十五分開議

○議長（林 豊君） 本日の出席議員数二十四名。これより第二回  
市議会定例会第四日の会議を開会し直ちに本日の会議を開きます。

議 案 の 配 付

○議長（林 豊君） 議案を配付いたさせます。

配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第一、議案第三十一号、議案第三十五号

及び議案第三十四号の各議案を一括して議題といたします。

### 総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました各議案は、去る六月二十二日の本会議において総務委員会に付託されたものであります。

よって、これより各議案に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 去る六月二十二日開会の本会議におきまして総務委員会に付託されました議案第三十一号、第三十五号及び第三十四号につきまして、二十三日総務委員会を開会し、慎重審査の結果、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主なる事項を申し上げます。

議案第三十一号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定についてですが、低所得者に対する減額措置については賦課の公平を期する上からも実態をよく把握し配慮することを要望いたしました。

次に、議案第三十五号工事請負契約の締結についてですが、周辺整備に対する土地買収について説明を求めたところ、駐車場等鋭意地権者と折衝しているとの説明がありました。この点につきまして万遺漏なきを期するよう要望いたしました。

次いで、本館工事と分館工事の工事請負業者が同じであるがとの

説明を求めたところ、博物館準備室において、博物館、資料館、美術館等の文化施設の施工実績のある業者、館山市の公共工事の指名実績のある業者という基準に基づき選定し、館山市建設工事等指名業者選出審査会の議を経て、市外から十五社、市内から五社の計二十社を指名し、入札は三回目をもって落札したとの経過説明がありました。

次に、議案第三十四号昭和五十七年度館山市一般会計補正予算第一号についてですが、正木のごみ処理場移転後における温水プール、老人福祉センターはどのようになるかを質問したところ、現在の施設を活用し運営していくとの答弁がありました。

次に、スクールバス関係でどのような保険に加入しているかを質問したところ、乗車する児童に係する自動車損害賠償責任保険と自動車損害共済基金分担金、長期及び短期分加入しているとの説明がありました。

次に、スクールバス運転の臨時職員の年齢を質問したところ、大正十三年生まれ一人、昭和二年生まれ一人であるとの答弁がありました。

次に、地元ではスクールバスが好評であり、その存続を要望する声があると聞くが、市のほうはどのように受け止めていくのかをただしたところ、現在のスクールバス運行と同じような方法で国鉄バスが運行できる時点で国鉄に切りかえたい、学校運営を細かく考えていくと、クラブ活動等の面で国鉄に切りかえたほうが便利な面があるとの答弁がありましたが、切りかえの際には問題のないよう特段の配慮を要望いたしました。

次に、通学道路の整備について、もっと早くできないのかを質

問したところ、国鉄の要望もあり、そのとおり計画し、設計し、四月早々着工し、かなりの部分を完了した。なお、御指摘のとおり完了していない部分については来月中に完成するとの答弁がありました。

次に、浜田からバスを利用している生徒を父兄が出迎えている事実があるのかをただしたところ、初めはあったが、いまは増発便をお願いしたので、特別の事情のない限りそういうことはないとの答弁がありました。

次に、東回り、西回りの運行回数を同じにできないのかを質問したところ、同じにできればよいと考えており、国鉄に折衝中であるとの答弁がありました。

次に、旧西小、東小の校舍解体はどのようになっているかをただしたところ、旧東小については入札を終えており、旧西小についても現場説明の上、至急取り壊しにかかるとの答弁がありました。

次に、旧し尿処理場用地の擁壁工事が計上されているが、この土地は旧地主に返すことになっているのではないのか。その際は買収価格で返すのかをただしたところ、工事場所は道路の法になっている部分で崩落の危険があるので、道路保護と用地を完全な形で旧地主に返そうとするための工事である、また買収したときの土地の価格で旧地主が買い戻すという約束になっているとの答弁がありました。

次に、ひじき漁業再生産対策事業補助金が計上されているが、これは千倉町千田沖で座礁した貨物船の重油流出による被害対策のものであると思うが、来年度の補助金と生産の見通しはどうかとただしたところ、来年度は補助金がないと思う、また生産のほ

りも影響はなくなるとの見通しを持っているとの答弁がありました。

次に、ごみ処理場建設の年次別の工程についてただしたところ、補助金の交付配分は初年度一〇％、二年目五〇％、三年目四〇％となっている。初年度は地下構造物、煙突、二年目は本体工事の五〇％に井戸、三年目は残りの本体工事、浄水施設、造園工事になるとの答弁がありました。

以上、総務委員会に付託されました議案につきまして、本委員会の審査の概要を申し上げます。

満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げ、総務委員会委員長報告いたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長長の報告を終わります。ただいまの委員長報告について御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。以上で質疑を結びたいします。

## 討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案の第三十一号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定について反対の討論をいたします。国保税は、市民の最も重い税となっており、もはや市民の担税力の限界を超えたものと思います。

市長は、国保税が年々ふえていくことに憂慮している、一般会

計から繰り入れについて老人保健法の推移を見ながら検討すると石井議員へ答えていますが、これは高くなり過ぎた国保税の現状を市長自身が認めたものと思われれます。

事実、一世帯当たり平均九万七千百十四円という国保税は、前年度に比べても一二%もふえています。

こうしたときのためにこそ活用するのが財政調整基金です。これまで蓄えた国保の財政調整基金を取りくずし、国保税の軽減に充てることを強く主張いたしまして、反対の討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 議案第三十一号に賛成の討論を行います。

館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定については、本市の国保被保険者の人口構成は、高齢化の急速な進展に伴い、療養給付費の増大によって国保財源を圧迫いたしております。したがって財源の危機的状況は、現行法ではさらに深刻化するものと考えます。

国民健康保険は、相扶、共済の精神を基調としたもので、社会保障の理想として、負担は能力に応じて、給付は必要に応じてでございます。したがって国保制度の財源としての負担形態を確立する必要があります。

本定例会で審議いたしました改正案は、課税限度額の引き上げ、所得割の案分率の引き上げ等は諸般の値上げに伴う低所得者に対する負担の軽減措置として行うものであり、応能原則を重視して

比重を置く負担形態は、現行法における負担の公平性の原則からは理想に近いものと考えます。

国民皆保険の国保制度は、低所得者、老人加入者の割合が高く、したがって国会において審議いたしております老人保健法案の早期成立、医療費支払い方式の是正を中心とした国の制度の抜本的見直しが必要と強く訴え、以上の理由をもって原案に賛成をいたします。

○議長（林 豊君） 以上で一二番議員栗原一雄君の討論を終わります。

他に討論はございませんか。——討論なしと認めます。

以上で討論を終結いたします。

採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は分割して行います。

まず、議案第三十一号について起立により採決いたします。

議案第三十一号についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第三十一号館山市国民健康保険税条例の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

次いで、議案第三十五号及び議案第三十四号の各議案を一括して採決いたします。

議案第三十五号及び議案第三十四号の各議案についての委員長  
の報告は原案可決であります。

各議案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありません  
か。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって議案第三十五  
号及び議案第三十四号の各議案はいずれも原案どおり可決されま  
した。

## 議 案 の 上 程

○議長(林 豊君) 日程第二、議案第三十二号館山市立博物館設  
置条例の制定についてを議題といたします。

### 文教民生委員会委員長報告

○議長(林 豊君) ただいま議題となりました議案第三十二号は  
去る六月二十二日の本会議において文教民生委員会に付託され  
たものであります。

よって、これより議案第三十二号に対する文教民生委員会にお  
ける審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

文教民生委員会委員長古賀礼四郎君。御登壇願います。

(文教民生委員会委員長古賀礼四郎君登壇)(拍手)

○文教民生委員会委員長(古賀礼四郎君) 去る六月二十二日開会  
の本会議におきまして文教民生委員会に付託されました議案第三  
十二号館山市博物館設置条例の制定につきましては、六月二十三  
日委員会を招集し、慎重審査の結果、賛成多数原案どおり可決す

べきものと決しました。

次に、審査の経過並びに結果について御報告いたします。

まず、この条例については、安全管理の面で何の規定もされて  
いないがとの質問に対し、今後作成される規則の中で対処してい  
くとのことであり、また市以外へのPRはどのように予定してい  
るかとの問いに対しては、ポスター一千枚を作製、配布するつも  
りであるとの説明がありました。

次に、城祭り、桜祭りなどで無料開放するよう考えていないか  
との質問に対しては、文化の日は無料ということも考慮している。  
また、開館後市民に優待券を出すことも考えているとの回答があ  
りました。

また、城の名称は決まったのか、愛称をつけたらどうかについ  
ては、名称はあくまで建設の過程で補助金との関連もあり、館山  
市立博物館とする。愛称は公式につけるべきものでなく、観光面  
で、市民の間からおのずからつけたほうがよいということになれ  
ば、その時点で決まるものと思います、の答弁がありました。

次に、観覧料について、無料にできないかとの質問に対して、  
県立安房博物館を含めて千葉県、東京都の博物館は常設展の場合  
は無料、その他は五十円から二百円程度を徴収している。また、  
県内においては二カ所が有料であり、加曽利貝塚が大人四十円、  
子供二十円、また野田資料館が大人十円、子供五円である。いま  
のところ一応予定している額でスタートして種々反応を見ながら  
検討したいとのことで、なるべく低額にするよう要望しました。

次に、展示する資料はどのくらいあるかとの質問には、分館で  
は八犬伝関係の浮世絵、草紙等で百十八点、本館では里見関係で五

百点程度であるとの説明がありました。

次に、この条例の第一条に書いてある市の歴史という表現はいまいで適切でないと思うがとの問いに対し、これは館山市の置かれていた地域の歴史であるとの説明で、それでは同第一条のレクリエーションについてはどういった内容を指すのかとの問いに対し、歴史散歩といったようなものを行っていききたいとのこととございました。

また、博物館を充実させるために職員の資質の向上、研究の水準というものが大切であるが、職員の配置についてどのように考えているかについては、文部省で示している好ましい運営基準では六人以上の学芸員となっているが、現在は準備の段階であり、四人の職員で資料の収集にあたっているとの答弁がありました。

また、学校教育との兼ね合いをどう考えているかについては、教育の一環として積極的に取り入れていくとの説明がありました。

また、市民の意見を反映させるために博物館運営協議会の設置とその構成はどのように考えているかとの質問があり、県下では十名程度が平均であり、学校教育関係者、社会教育関係者、学識経験者で構成されている。当博物館も本館設置の時期に協議会を組織する予定であるとの答弁がありました。

次に、パンフレットの製作費のために観覧料を取るのはいくらか、特に本館については施設の趣旨からすれば無料でよく、パンフレットについては観覧料の意味でなく特に希望する人に販売すればよいのかとの質問に対して、博物館は社会教育としての施設を利用するという受益があるわけで、また観光的な要素もあり、受益者負担の考えを入れても差し支えないと考えて

いるとの答弁がありました。

次に、開館時間、休館日についてはの問いに対しては、午前九時開館、午後四時三十分閉館、特に冬期には四時としたい。また休館日は火曜日と予定しているとのこととありました。

以上、本委員会の審査の概要を御報告申し上げましたが、満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、文教民生委員会委員長報告いたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑を願います。御質疑ございませんか。——御質疑なしと認めます。よって以上で質疑を終結いたします。

## 討 論

○議長（林 豊君） これより討論に入ります。

通告がありますので発言を許します。

一番議員神田守隆君。御登壇願います。

（一番議員神田守隆君登壇）

○一番（神田守隆君） 議案第三十二号館山市立博物館設置条例の制定について反対の討論をいたします。

博物館法は、公立博物館では入館料を無料とするのを原則としています。事実、県内の登録博物館では国公立十館のうち有料は千葉市の加曽利貝塚博物館の大人四十円、子供二十円、野田市郷土博物館の大人十円、子供五円の二館であるとの市当局の説明がありました。これらことから見ても大人百円、子供五十円というのは、観光施設ならいざ知らず、公立博物館としては有料と



しても、特別に高い入館料となっています。

博物館は、市民が郷土の歴史や民俗などを実物を通して自己教育する場でもあります。図書館に行く気軽さで市民が行けるものでなければならぬと考えます。

市の文化財保護行政は大変に遅れている、それだけに、博物館を拠点とし、地域の歴史や民俗への市民の理解が深まってくことは、こうした施策の発展の上で重要なものであると考えます。博物館を観光施設のごとくみなし、そこから幾ばくかの収益を期待するなど、博物館のあり方を根本的に否定するものであり、博物館法の趣旨に反するものと考えます。

博物館設置条例の必要性は言うまでもありませんが、観覧料の問題は運営の基本問題であり、その無料化を強く主張いたしましたので、反対討論といたします。

○議長（林 豊君） 以上で一番議員君の討論を終わります。

以上で通告者による討論を終わります。

通告をしない議員で討論はございませんか。——討論なしと認めます。以上で討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

採決は起立により行います。

議案第三十二号についての委員長長の報告は原案可決であります。本案を委員長長の報告どおり可決することに賛成の諸君の起立を求めます。

（賛成者起立）

○議長（林 豊君） 起立多数であります。よって議案第三十二号館山市立博物館設置条例の制定については原案どおり可決されました。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 次に、日程第三、議案第三十三号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定についてを議題といたします。

### 建設経済委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました議案第三十三号は去る六月二十二日の本会議において建設経済委員会に付託されたものであります。

よって、これより議案第三十三号に対する建設経済委員会における審査の経過並びに結果につき委員長長の報告を求めます。

建設経済委員会委員長石井 謙君。御登壇願います。

（建設経済委員会委員長石井 謙君登壇）

○建設経済委員会委員長（石井 謙君） 去る六月二十二日の本会議におきまして建設経済委員会に付託されました議案第三十三号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定について、去る二十四日建設経済委員会を招集し、議案の審査を行いました。

その経過並びに結果について御報告を申し上げます。

まず、議案の慎重なる審査の結果につきまして、全員一致原案どおり可決すべきものと決しました。

次に、審査の経過について主な事項を申し上げます。

今回の改正は、収入基準の拡大が図られた改正であるが、現在入居している者の中にはこの入居基準を超過する者があると考えられるが、これらに対してはどのように対応していくか尋ねたところ、市営住宅に入居している者については三年ごとに収入に関する報告を徴し、それにより基準を超過した者については割増賃料を徴収している。なお、高額所得者については明け渡し請求をいたしてある旨の説明がありました。

以上、建設経済委員会に付託されました議案について、本委員会の審査の概要を申し上げます。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願い申し上げます、建設経済委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はございませんか。――

御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はございませんか。――討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

議案第三十三号についての委員長の報告は原案可決であります。本案を委員長の報告どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって議案第三十三

号館山市市営住宅の設置及び管理に関する条例等の一部を改正する条例の制定については原案どおり可決されました。

## 請 願 書 の 上 程

○議長（林 豊君） 日程第四、請願第一号地域の公共交通確保に関する請願書を議題といたします。

### 総務委員会委員長報告

○議長（林 豊君） ただいま議題となりました請願書は、去る三月招集の定例会において総務委員会に付託、継続審査に付されたものであります。

よって、これより本請願に対する総務委員会における審査の経過並びに結果につき委員長の報告を求めます。

総務委員会委員長横溝 功君。御登壇願います。

（総務委員会委員長横溝 功君登壇）

○総務委員会委員長（横溝 功君） 請願書の審査結果について御報告申し上げます。

閉会中の継続審査として総務委員会に付託されておりました請願第一号におきましては、六月二十三日の委員会において審査を行いましたところ、採択とすべきものと決定いたしました。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたします。総務委員会委員長報告といたします。

○議長（林 豊君） 以上で委員長の報告を終わります。

ただいまの委員長報告について御質疑はありませんか。――御質疑なしと認めます。よって質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

通告はありませんでした。討論はありませんか。——討論なしと認めます。よって討論を終結いたします。

## 採 決

○議長（林 豊君） これより採決いたします。

請願第一号についての委員長の報告は採択であります。

請願第一号を委員長の報告どおり採択と決しますことに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって請願第一号は採択すべきものと決しました。

## 日 程 の 追 加

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

ただいま採択と決定されました請願第一号に付帯して、発議案第三号地方陸上公共交通確保に関する意見書についてが提出されました。

この際、本発議案を日程に追加し、議題といたしたいと思います。これに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案を日程に追加し、議題とすることに決定しました。

## 議 案 の 上 程

○議長（林 豊君） 発議案第三号地方陸上公共交通確保に関する

意見書についてを議題といたします。

議案を配付いたさせます。

（議案配付）

○議長（林 豊君） 配付漏れはありませんか。——配付漏れなしと認めます。

議案の朗読を願います。

（書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

## 議 案 の 内 容 説 明

○議長（林 豊君） 議案の説明を求めます。

（四番議員横溝 功君登壇）

○四番（横溝 功君） 発議案第三号地方陸上公共交通確保に関する意見書について提案理由を御説明申し上げます。

本案は、ただいま採択されました請願書の趣旨を体しまして提出いたしましたものであります。

御承知のとおり、最近のモータリゼーションの急速な進展等によりまして、地方におきます陸上公共交通の維持が困難となっております。本市におきましても国の地方バス路線運行維持対策要綱に基づいて地方バス路線維持費補助金要綱を制定し、生活バス路線の維持に努めております。

ところが、国におきましては、第三種生活路線に対します補助打ち切りを示唆しておりますので、この際地域住民の需要に応じた公共交通を維持、整備する観点から、安定的な財源をはじめ総合的な施策の確立を要望いたしたく、お手元に配付のとおり七名の

賛成者を得まして本案を提出いたしました次第でございます。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようお願いいたします、提案理由の説明いたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

御質疑を願います。——御質疑なしと認めます。

#### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。

#### 採 決

○議長（林 豊君） よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

（「異議なし」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

#### 議案の上程

○議長（林 豊君） 日程第五、発議案第四号日中国交正常化十周年を祝賀し、中国及び養父母に感謝する決議についてを議題いたします。

議案の朗読を願います。

#### （書記朗読）

○議長（林 豊君） 朗読は終わりました。

#### 議案の内容説明

○議長（林 豊君） 提出者の説明を求めます。

（一二番議員栗原一雄君登壇）

○一二番（栗原一雄君） 発議案第四号日中国交正常化十周年を祝賀し、中国及び養父母に感謝する決議について提案理由を御説明申し上げます。

中国在住日本人孤児による肉親捜しにつきましては、戦後三十数年を経た今日、私たちは強い衝撃を受けるとともに、本問題の解決は国民的課題であることを痛感いたしました。

御承知のとおり、本年は日中国交が回復されて十年目を迎えたこの際、本市議会といたしましても十周年に祝意を表し、中国及び養父母に感謝する決議をいたしたく、お手元に配付のとおり六名の賛成者を得まして本案を提出した次第でございます。

満場の御賛同を賜りますようお願いいたします、提案理由の説明いたします。

○議長（林 豊君） 説明は終わりました。

#### 質 疑 応 答

○議長（林 豊君） 御質疑を願います。

○一九番（石井輝久君） 一点御質問申し上げます。  
中国というのは、大陸を指しているのか、あるいは国家を指しているのか。一点だけお伺いします。

○一二番（栗原一雄君） これにつきましては、中国、このように国を指しております。

○一九番（石井輝久君） 中国という国家の存在は、まあ通称でございましょうけれども、正確ではない。正確を期すなら、国家とするならば、中華人民共和国という国家しか存在しません。お伺いします。

○一二番（栗原一雄君） これらの問題につきましては、千葉県がいわゆる全国に先がけまして、最初に御説明申し上げましたとおり、新聞、テレビ、ラジオで御承知のとおり、中国の養父母に感謝しよう、こういった実行委員会がすでに結成されておりますので、本市におきましても中国——県と全く同じような形をとったわけでございます。

○一九番（石井輝久君） 国家を指すとするならば、略称では大変失礼です。千葉県がどうあるかと、館山市議会は、国家を指すとするならば、略称の国家は大変失礼なことになります。中華人民共和国——国家を指すとするならば——とすべきであろうと思います。御見解をお聞かせください。

○一二番（栗原一雄君） 社会通念としてはこのように申し上げております。

○一九番（石井輝久君） 社会通念で……。一つの国交を持った正式の国家を略称で指すとは大変先方の国家に対して——ことにこれは感謝することでありますので、改めて訂正を要求いたします。国家を指すならば。

○一二番（栗原一雄君） 国会におきましても日中という表現を使っておりますので、そのようにいたしました。

○議長（林 豊君） 一九番議員君に申し上げます。

所定の三回の回数を超えておりますので、暫時休憩をいたしましたと思います。議運をお願いいたします。

（「社会通念じゃだめだよ」、「諮ればいいじゃないか」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 静粛に願います。

以上で一九番議員君の質疑を終わります。  
他に御質疑はありませんか。

（「議長、休憩」と呼ぶ者あり）

○議長（林 豊君） 暫時休憩いたします。

午前十一時二分 休憩

午前十一時十分 再開

○議長（林 豊君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

○一二番（栗原一雄君） ただいまの発議案第四号につきまして、賛成者を招集いたしましたしてお諮りいたしましたところ、原案のとおりといたしまして、訂正の意思はございません。以上でございます。

○一九番（石井輝久君） 発案者、提出者の一致した御意見であるように承ったんで、了解をいたしました。

○議長（林 豊君） 他に御質疑ありませんか。——御質疑なしと認めます。よって質疑を終わります。

#### 委員会付託の省略

○議長（林 豊君） お諮りいたします。

本案については委員会の付託並びに討論省略、直ちに採決する

ことに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。

## 採 決

○議長(林 豊君) よって、これより採決いたします。

本案を原案どおり可決することに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって本案は原案どおり可決されました。

## 動 議

○二三番(菊井敏博君) この際、動議を提出いたします。

現在、わが国の経済は国際環境等の変化により安定成長を余儀なくされ、国民を取り巻く環境も常に変化し、行政に対する住民要望もこれに呼応し、時代の進展に伴い行政の見直しが要請され地方行政も減量化、効率化が提唱されている。

本市議会も、議会の立場から議員定数の検討をする必要があるかと思ひます。

よって、この際十二人の委員をもって構成する議員定数調査特別委員会を設置し、これに付託の上、調査、検討されるよう望みます。

なお、調査期間につきましては、閉会中の継続審査とされますよう重ねて要望いたします。

何とぞ満場の御賛同を賜りますようここに動議を提出いたします。

す。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○一九番(石井輝久君) 緊急動議を提出いたします。

(「動議だぞ」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 動議は成立いたしました。

○一九番(石井輝久君) 動議を提出いたします。

ただいまの案件は、きわめて重大と思われるので、これを検討するために暫時休憩を求めます。

(「賛成」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 暫時休憩いたします。

午前十一時 十五分 休 憩  
午後 一時四十三分 再 開

○議長(林 豊君) 午後出席議員数二十六名、休憩前に引き続き会議を開きます。

## 日 程 の 追 加

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

この際、二三番議員君の動議を日程に追加し、議題とすることに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よってこの際本動議を日程に追加し、議題とすることに決しました。

## 議員定数調査特別委員会の設置・付託

○議長(林 豊君) 本動議を議題といたします。

お諮りいたします。本動議のとおり決することに賛成の諸君の起立を求めます。

(賛成者起立)

○議長(林 豊君) 起立多数であります。よって本動議は可決されました。

(「異議あり、起立少数」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 本動議は可決されました。

暫時休憩をいたします。

午後一時四十四分 休憩

午後五時 十三分 再開

○議長(林 豊君) 休憩前に引き続き会議を開きます。

## 日程の追加

○議長(林 豊君) お諮りをいたします。

この際、会期延長の件を日程に追加し、議題といたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よってこの際会期延長の件を日程に追加し、議題とすることに決定いたしました。

## 会期延長について

○議長(林 豊君) 会期延長の件を議題といたします。

お諮りいたします。今期定例会の会期は六月二十五日までと議決されておりますが、議事の都合により会期を六月二十六日まで一日間延長いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって会期は六月二十六日までの一日間延長することに決定いたしました。

延長 午後五時十四分延会

○議長(林 豊君) お諮りいたします。

本日の会議はこれにて延会いたしたいと思ひます。これに御異議ありませんか。

(「異議なし」と呼ぶ者あり)

○議長(林 豊君) 御異議なしと認めます。よって決定いたしました。

なお、明二十六日は午前十時開会とし、その議事は追加議案等の審議といたします。

○本日の会議に付した事件

一、議案第三十一号乃至議案第三十五号

一、請願第一号

一、日程の追加・発議案第三号

一、発議案第四号

一、動議・日程の追加・議員定数調査特別委員会の設置、付託  
一、日程の追加・会期延長について